

う
つ
わ
あ
そ
び

陶芸家・中野純が作る「あつた蓬菜軒」会席の器



黒陶蓋物



会期 / 2016年2月23日(火) - 28日(日)

会場 / 白鳥庭園 清羽亭

観覧無料 ※別途入園料等必要(裏面参照)

※28日(日)は講習会開催につき、一部展示がご覧いただけません。ご了承ください。

中野 純 (なかのじゅん)

1972年千葉県生まれ。1996年東京大学文学部卒業。大学1年の時に陶芸に出会い、その日に“これを仕事にする”と心に決める。在学中に小さな窯をもち、陶芸制作を開始。卒業後3年半は出版社にて雑誌編集の仕事に携わり、2000年より制作に専念。同年5月の松屋銀座(東京)での初個展を皮切りに、名古屋、神戸、岡山、広島、熊本、福岡、金沢、富山と発表の場を広げている。名古屋ではこれまで松坂屋にて9回個展開催。千葉県長生郡長柄町在住。 <http://www.junnakano.com/>

う つ わ あ そ び

陶芸家・中野 純が作る
「あつた蓬萊軒」会席の器



名古屋の熱田神宮のほど近くにある「あつた蓬萊軒」は、明治6年、旧東海道の宿場町「宮の宿」の陣屋跡地に創業した老舗料理店です。その「あつた蓬萊軒」さんに、2003年、06年、12年と3度にわたって、僕は器を納めてきました。6代目社長の鈴木淑久さん、総料理長の武藤俊吾さんと打ち合わせをして3年、あるいは5年の時間をかけて取り組んだ、自分にとって思い入れの深い仕事です。今回、蓬萊軒さん、白鳥庭園さんのご協力によって、そうして生まれた器の数々をお借りして、展示できることになりました。展示方法としては、ふたつの切り口を考えました。まずひとつは、中野の器が実際に蓬萊軒でどのように使われているか、器と日本料理の繋がりを感じられるように、武藤俊吾さんによって盛り付けられた料理写真とともに展示すること。つまり「用」のものとしての器の紹介です。

そしてもうひとつの切り口として、「用」のものである器を、あえてその本来の文脈や意味から解き放つことを試みました。ある時は純粹な造形物として、またある時は複数の器を並べたり積んだりすることで、見る方にも「用」から離れて別の目で見えて楽しんでいただけるように心がけました。といてもなにか難しいことを表現しようとしているわけではなく、たとえば子どもが積み木を積んだり並べたりする時のような気持ちで、「ほら、こうして並べるときれいだよ、面白いよ」と、この趣きある数寄屋建築を舞台に無邪気に遊ばせてもらった気持ちです。

また、そのほかに参考作品として壺とオブジェも出品します。あわせて楽しんでいただけたら、作者としてこんなにうれしいことはありません。

中野 純



松灰釉沓型向付 二月堂



藍灰釉葛文蓋碗



薰灰釉柔型台皿



白鳥庭園 愛知県名古屋市熱田区熱田西町2-5

開園時間：9時00分～17時00分（入園：16時30分まで）

休園日：毎週月曜日

観覧料：大人（中学生以下無料）300円

高齢者（名古屋市内在住 65歳以上）100円

駐車料金：大型車1,200円・普通自動車300円 他

アクセス：地下鉄名城線『神宮西』駅 4番出口 徒歩10分
白鳥橋を渡ってすぐを右折

◎清羽亭について

庭園のほぼ中央、流れのほとりに位置する清羽亭は、自然素材を生かして、京都数寄屋大工と尾張大工の親密な協力によって造り上げた本格的な数寄屋建築です。外観は白鳥の舞い降りる姿をイメージし、庭園と建物の美しい調和を見せています。

ランチタイム・トーク：日本伝統文化講習会 庭園cafe SEIUTEI

熱田学その2「縁に連るれば宮の宿」

朗読家：紫堂 恵

日時：2016年2月28日（日） 午前11時30分から午後1時30分

陶芸家：中野 純

場所：清羽亭 広間 定員：20名 参加費4,000円（会席ランチ付き）

宮宿会会長：鈴木淑久

※詳細問合せ・申込：白鳥庭園管理事務所 電話(052)681-8928

※定員になり次第募集を終了します。